

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年3月22日

【評価実施概要】

事業所番号	2277102113
法人名	医療法人 社団静隆会
事業所名	グループホーム 市野の家
所在地 (電話番号)	浜松市東区市野町287-1 (電話) 053-431-4431
評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成19年9月5日

【情報提供票より】(19年8月26日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年4月15日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	20人	常勤	18 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 18.8 人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	3階建ての	1階 ~ 3階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	無(有の場合もある)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1500 円			

(4)利用者の概要(8月26日現在)

利用者人数	27 名	男性	13 名	女性	14 名
要介護1	8 名	要介護2	7 名		
要介護3	9 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 76.5 歳	最低	60 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	中村医院 坂の上クリニック
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの敷地は広く、隣接して畑もあり、全体的にゆとりがあるホームである。利用者が安心して生活しながら地域に根付いたホームづくりを進めて4年目を迎える。ホーム理念は「明るい笑顔・優しい対応・家族のぬくもりと心のふれあいを大切に」であり、充実した生活が継続して行えるように、利用者本位のサービス提供を目指している。隣接してる畑では、利用者職員が野菜を栽培し、それが調理され食卓にも用意される他、利用者一人ひとりが思い思いの生活をしながらも、充実した生活が送れるように職員が一丸となって取り組んでいる。家庭的なホームを目指し、地域自治会活動にも積極的に参加する等、地域住民との交流も深まってきており、今後の取り組みにも期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果の課題であった地域との交流は、自治会に加入したことで近隣住民との付き合いが深まっている。また、食事面でも利用者と献立を考え、一緒に調理を行う場面を設ける等の改善が図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価を行う意義を十分に理解し、自己評価は全ての職員で取り組んだ。職員が全員で関わることで、一人ひとりの課題を共有するように取り組んだ。また、これまでの取り組みを振り返るきっかけとしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的開催され、区福祉課担当者や包括支援センター職員、民生委員、自治会長、家族2名等で構成している。ホームの状況説明を行い、逆に地域の行事情報等を得ることで、利用者の生活に幅を設け、更なる充実を目指している。今後は防災についての協力も得られるような取り組みも考えており、取り組みに期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には日常の生活の様子を定期的に伝え、気軽に意見や意向、苦情が寄せられるような雰囲気づくりに努めているが、訪問の少ない家族からは、それがなかなか寄せられないという課題を認識している。意見や苦情等が出された場合には、それを真摯に受け止め、解決する仕組みの構築と、運営にも反映させるようにしている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域行事等にも積極的に参加している。また、定期的にホーム祭りを開催し、地域住民の参加も促し、多くの住民が参加してくれるようになってきた。ホームとして、近隣住民と更なる交流を深め、更に地域に根付くホームづくりを進めるように考えているので、今後の取り組みに期待したい。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るい笑顔、優しい対応、家族のぬくもりと心のふれあいを大切に」との理念を明確にしている。	○	ホーム自身でも考えている地域との関係についても理念に盛り込んでいく等の検討にも期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期的に理念の確認を職員同士で行い、利用者が自らの家庭で暮らしているような気持ちとなるように言葉遣いや服装にも気をつけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、老人会や祭り、行事等にも積極的に参加している。ホームが実施する夏祭りには、地域住民の参加も多い等、交流も深まっている。	○	地域住民との交流を大切に考え、地域に根付いたホームづくりを進めているので、今後の取り組みにも期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を行う意義を理解し、職員全員で取り組んでいる。これまでの評価結果についても、内容の確認を行い、職員全員で検討し、計画的に改善に努めてきた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月に一度の頻度で開催している。これまでの協議内容としては、評価結果やホーム運営状況の報告が中心となっているが、出された意見は記録し、職員間でも共有するようにしている。	○	運営基準にも位置付けられているとおり、2ヶ月に一度開催し、利用者へのサービス向上に向けた取り組みともなるように期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市(担当者)との連絡は定期的に毎月1回行い、市長寿保険課や社会福祉課の担当者との情報交換や相談を行っている。	○	定期的な話し合いの場を設けているので、今後は利用者の生活の質の向上のためのケース検討や事例検討も行われるように期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問の際には、利用者の生活の様子や金銭管理状況を伝えている。また、写真入りの便りを作成し、日々の生活や職員紹介等も行われている。金銭管理状況は毎月コピーと証憑類により、報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問の際には、意見や要望等が気軽に言えるような雰囲気づくりに努めているが、訪問の少ない家族もあるとの課題も認識している。運営推進会議では、家族の参加も得て、発言を促している。	○	訪問の少ない家族との連絡を定期的に行う等、利用者と家族が疎遠にならないような取り組みに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や移動について、利用者に与える弊害を良く理解し、できる限りそれが起こらないように配慮している。開設当時は移動や結婚で職員の移動、離職もあったが、現在では落ち着き、馴染みの関係となって利用者と接している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や法人内研修には全員が参加できるように工夫をしている。認知症だけではなく精神疾患についても精神科医から学び、対応方法等についても理解を深めている。	○	今後もサービスの質の向上を図るために、経験や職種による体系的な研修体制について検討されるように期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は定期的な管理者研修等に出席し、情報交換等を行い、得られた情報は職員にも伝えている。地域内の同業者による定期的な交流や研修を行うにまでは至っていない。	○	地域内で介護サービスを提供している事業者等と定期的に交流を図り、それぞれの生活が向上するための検討や職員交流等の実施についても検討して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用申込者自身がホームを見学し、納得した上で利用を開始するように配慮している。また、利用開始時にはサービスや生活に慣れるまで、職員が寄り添いながら少しずつ馴染んでいけるように留意している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とは馴染みの関係づくりを大切に考えながらも、一方的にサービス提供するのではなく、お互い対等な立場で、且つ尊厳を損ねることが無いように、留意して接している。日常生活の中で、喜怒哀楽を共有できるように職員もホームでの生活を楽しく対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、利用者一人ひとりとの会話や表情等で希望や意向を把握するように努めており、その内容は職員間で共有できるように記録している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を踏まえて、その人らしく生活ができるように課題を明確にした具体的な介護計画の策定を行っている。介護計画策定にあたっては、職員の意見も反映させるようにしており、家族に確認後全ての職員も確認も行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月一度のケア会議により、利用者の確認を行う他、3ヶ月に一度のモニタリングを通して計画の見直しを行っている。また、状況に変化が合った際には随時計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	ホームの特性を良く理解し、 柔軟に対応するように努めて いる。利用者や家族からの希 望はできる限り対応するよう にしている。医療機関との連 携を図っており、馴染みの職 員が対応できる留意している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるように支援している	利用者及び家族の意向を尊重 し、希望するかかりつけ医へ の受診が行えるように支援し ている。職員が通院(受診)支 援をする場合がある他、ホーム 協力医による往診も定期的 に行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針 の共有 重度化した場合や終末期の あり方について、できるだけ 早い段階から本人や家族等 ならびにかかりつけ医等と 繰り返し話し合い、全員で 方針を共有している	状況が重度化した場合等には 、家族及び担当医に相談して 対応することになっている。 その際には、職員が状況を 確認し合い、統一した支援を 行えるようにしている。病院 を希望する家族にはグループ の病院を紹介している。	○	ターミナルケアは一人ひとり によってその思いも異なる が、今後もできる限り早い 時期から利用者本人や家族 の思いを把握した対応を 期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシー を損ねるような言葉かけや 対応、記録等の個人情報の 取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの人格や尊 厳を損ねることが無いよう に留意して、羞恥心にも配慮 した言葉使いや支援に心掛 けている。その対応方法につ いても定期的に検討している。 個人情報保護に関しても、正 しい認識をもって対応して いる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先 するのではなく、一人ひとり のペースを大切に、その日 をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	一人ひとりの希望や意向に沿 って、そのペースに合わせて の支援を行っている。ソファ でテレビを見る人、居室で ジグソーパズルをする人、 職員とおしゃべりをする人 等、自由に過ごせるように 支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	土・日曜日は入居者と献立を考え、調理も利用者とともに作っている。職員が必ずしも同じ食事を食べている訳(弁当持参の場合もあり)ではないが、食事時間を楽しい一時にするように会話が弾んでいる。	○	ホーム機能を考慮し、今後もメニューづくりや調理等が利用者と職員で行える機会を増やすような検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外はいつでも入浴できる。入浴時間は概ね14時から16時で、利用者は殆どが毎日入浴している。夜間の入浴希望者は今のところ居ない。	○	日曜や夜間の入浴も希望に沿って行えるよう、今後の検討も期待したい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や趣味、嗜好等を把握し、毎日の生活が単調とならないように、充実した生活が継続できるように支援している。ホーム内の役割も職員とともに自然に分担され、利用者も楽しく生きがいをもって関わっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物等、積極的に外出できるように支援している。地域老人会への参加や、年2回の遠足、また季節ごとの外出等、ホームに閉じこもることが無いように関心を持って外出できるような工夫もしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解し、日中は一切施錠しないようにし、利用者の動きを見守るようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な年2回消防署の指導のもとで避難訓練行っている。ホーム内の災害対策は定期的に検討している。	○	あらゆる事態を想定し、近隣住民の協力も仰げるような関係づくりについても今後期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取については、一人ひとり個別に記録している。また、食事制限がある場合等についても、利用者や家族等と相談し、食事量を決めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔で換気にも留意し、快適な環境が保たれている。季節に合わせた利用者の作品や花が飾られ、季節感ある雰囲気が醸し出されている。利用者が居心地良く過ごせるように留意した空間づくりがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みに応じた装飾がなされている。使い慣れた家具等を持ち込み個性ある居室となっているが、持ち込みがされずやや殺風景な居室もある。	○	今後も利用者の意向に沿う居室となるように働きかけを継続することを期待したい。